

令和6年度 第1回山鹿市総合教育会議 議事録

日 時	令和6年10月23日(水) 午後1時30分
場 所	山鹿市役所(4階401会議室)
出席者	早田市長、堀田教育長 教育委員：野中委員、野口委員、立山委員、芹川委員 市職員：大林総務部長、中尾教育部長、佐藤教育部首席審議員、北本首席教育審議員、西島教育総務課長、田上学校教育課長、西浦学校教育指導室長、林田学校教育指導室審議員、橋本学校教育指導室審議員、長瀬生涯学習・スポーツ課長、淵上文化課長、坂本教育総務課長補佐、角田学校教育課長補佐、井口学校教育課長補佐、井上生涯学習・スポーツ課主幹、山口文化課長補佐、小林教育総務課長補佐、井上教育総務課総務企画係長
傍聴者	なし

1 開 会

2 議 題

- (1) 教育大綱・教育振興基本計画の策定について
- (2) 宮古島市との交流について

3 その他

4 閉 会

発言者	発 言 内 容
小林教育総務課長補佐	皆様お揃いとなりましたので、令和 6 年度第 1 回山鹿市総合教育会議を開催します。 ご起立をお願いします。礼。ご着席ください。 まず始めに、総合教育会議について簡単にご説明したいと思います。 平成 27 年 4 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部を改正する法律が施行され、総合教育会議の規定が定められました。本市の教育の課題や教育を取り巻く状況等を共有しながら、連携して効率的に教育行政を推進していくための会議となります。 本日の議題は、「教育大綱・教育振興基本計画の策定について」及び「宮古島市との交流について」となっております。 本件議題につきましては、非公開とすべき事由がないことから、本日の会議及び議事録につきましては公開とします。 なお、本日は傍聴者の方はおられません。 それでは早速ですが、議事に入りたいと思います。 これからは、早田市長に会議の議長をお願いしたいと思います。 早田市長、よろしくお願いします。
早田市長	本日は今年度の第 1 回目の山鹿市総合教育会議ということで、教育長を始め、教育委員の皆様方には、お忙しい中にご出席をいただき、誠にありがとうございます。 また、職員の皆様はお疲れ様でございます。それでは、議題に移らせていただきます。 議題 1、教育大綱・教育振興基本計画の策定について、事務局から説明をお願いします。
西島教育総務課長	教育総務課でございます。 議題 1、教育大綱・教育振興基本計画の策定につきまして、事前にお配りしております資料をもとに説明させていただきます。 本市が定めております教育行政の最上位の基本方針が、「教育大綱」及び「教育振興基本計画」になります。 「教育大綱」は、地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する教育の目標の総合的な施策の根本的な方針を定めたものになります。 また、「教育振興基本計画」は、「教育大綱」に掲げました基本理念・基本方針を具現化しまして、効果的かつ効率的に教育の振興が図られるよう策定するものとなっております。 「教育振興基本計画」につきましては、毎年、教育委員会が前年度に実施しました施策や取り組みにつきまして、教育委員会及び教育基本計画推進委員会の委員の皆様、意見聴取を行い、その結果を取りまとめた「教育委員会の事務に関する点検評価報告書」を議会に提出し、最終的には市のホームページにて公表をしております。 現在の計画期間につきましては、資料 2、現計画期間のところに記載のとおり、「第 3 次山鹿市教育大綱」が令和 3 年度から令和 6 年度まで、「第 4 次山鹿市教育振興基本計画」が、令和 4 年度から令和 6 年度までとなっております。

	策定にあたっての法的根拠につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」や「教育基本法」に定めてあり、県・市町村が国の基本的な方針（「国の第４期教育振興基本計画」）を参酌し、その地域の実情に応じて、当該地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的な計画を定めるよう規定されております。 また、併せて、本市が策定している各種計画の最上位計画であります「第２次山鹿市総合計画」と整合を取る必要がございます。 資料の下段の表をご覧ください。 現在、「山鹿市総合計画」の計画期間は令和７年度までとなっております、「教育大綱」及び「教育振興基本計画」と１年間のずれが生じております。１年前倒しして「教育大綱」及び「教育振興基本計画」を策定しますと「山鹿市総合計画」との整合性及び施策や事業の統一性に無理が生じることが予想されますので、現在の「教育大綱」及び「教育振興基本計画」を１年間延長し、「山鹿市総合計画」と計画期間を合わせたいというふうに考えております。なお、１年間延長するにあたっては、本年度中に令和７年度の取り組みや、目標値等を新たに設定する必要があります。 今後のスケジュールとしましては、各課で各事業の成果指標、数値目標等を設定し、「第４次山鹿市教育振興基本計画」の改訂版について１２月の定例教育委員会の議題として、提出する予定としているところでございます。 簡単ではございますが、説明を終わります。
早田市長	ありがとうございます。 ただいま教育大綱・教育振興基本計画の策定について、説明がありましたけれども、委員の皆様から何かご質問等ございませんでしょうか。
野口委員	今回はこうしますということですが、今後はどうするのですか。と言いますのが、「教育大綱」と「基本計画」がずれていると見えづらいから、合わせましょうということは分かります。「山鹿市総合計画」の策定期間と次の計画を合わせることで、今後もそれでいくのか、市長の任期と合わせて４年に１回が普通かなと思いますが、「山鹿市総合計画」は長いですね、今回だけのやり方なのか、今後も「山鹿市総合計画」の計画期間に合わせていくのか。国の基本計画とどうするのか。どう考えているか、教えてください。
大林総務部長	現在の「第２次山鹿市総合計画」は１０年間の計画期間で、前期と後期を５年ずつに分けて策定をしております。 当然、「総合計画」自体が一番の大元の計画でありますけれども、現実的には首長選挙とちょっとずれているのがございます。その関係もありまして、今度、「第３次総合計画」を作成にあたっては、計画期間そのものを見直そうという考えでおります。今のところはそのような考えでおります。 ただ、現在の計画自体が令和７年度までということになっております。実はこれに合わせて、総合戦略も１年間延ばした形にしております。山鹿市の総合戦略ですけど、これも１年間伸ばした形で、令和７年度に合わせました。 「第３次教育大綱」や「教育振興基本計画」が、同じ時期で終了するような形になっていますが、「総合計画」が７年度までということなので、これに合わせて

	れたのだらうと思いますが、今申し上げたとおり、今後、「総合計画」自体の計画期間を見直しますので、「第4次教育大綱」、「第5次教育振興基本計画」につきましても、おそらく策定の段階でその情報も入ると思いますので、それに合わせた形になってくるのかなというふうに思います。 ただこれは教育委員会でお決めになることですので、こちらの方としては強制というわけではありませんけども、市の基本となる「総合計画」の期間については、早めにお示しをしたいと思っております。おそらく、首長の任期に合わせて、4年の前期、後期で併せて8年という形になると思います。 以上でございます。
中尾教育部長	今説明がありましたとおり、「教育大綱」としても基本的には「総合計画」に合わせていくべきものと思います。今回は1年延長させていただくことになりますけど、次の「総合計画」の期間が4年ということになれば、「教育大綱」も基本的に4年となっていくものと考えております。
早田市長	次の次からは、足並みが揃っていくということですか。
中尾教育部長	はい。
野口委員	国の計画もありますが、そうすると山鹿市の計画が1番最後になりますね。国も大きくは変えないと思いますけど、大きく変わったときは、山鹿市の計画を変えればいいと思います。途中で変えるといいと思います。
早田市長	途中で変更はできるのですか。大まかに流れが変わるといけませんが、国の方針で、内容が変わる場合はどうなりますか。
大林総務部長	大きな外的な要因があって、現計画がその内容にそぐわなくなったということになれば、当然見直しが出てくると思います。直近で言いますと、菊陽町が都市計画マスタープランを作りましたが、2年後 TSMC が進出するというので、もう1回作り直すというような例もございます。 いろんな外的な要因によって、その計画自体の目的を達成し得ないということであれば、それはもう弾力的に変える必要があるだろうと思います。1つ心配しますのは、全ての計画を1つに、合わせてしまいますと、一遍に全ての結果を変えてしまうということになりますので、職員の負担がかなりでてきます。そうは言っても、総合計画の期間が決まっていれば、それに準じた形でやっていくのが、行政のいろんな計画の体系上はそういうふうな形になっておりますので、それにならっていただくしかないかなというふうに思います。
早田市長	野口委員よろしいですか。
野口委員	考え方をどうするかだけです。合わせていくのか、1年ずつ遅らせていくのか。全体を見たうえ、次の年から始めますとか、五月雨式にするやり方もあります。基本的には、山鹿市の総合計画に合わせて作っていきますよということですね。 国の計画は参酌することになっていきますけれども、それがもし大きく変わるようなこと自体があれば、その時点でどうするかを検討していくということでもいいのですよね。
執行部	はい。

早田市長	他にございませんか。 無いようでしたら、議題に入りますが、よろしいでしょうか。
各委員	はい。
早田市長	それでは続きまして、議題２ 宮古島市との交流について 事務局から説明をお願いします。
西島教育総務課長	教育総務課です。 議題２、宮古島市との交流につきまして、説明させていただきます。 ページは、右下に通し番号が振っております。 まず２ページをご覧ください。 初めに「宮古島市の概要」になります。 人口は約５万５千人、世帯数は約３万世帯、面積は２００ｋ㎡です。 平成１７年１０月に、１市３町１村で合併されております。 位置図のとおり沖縄本島よりさらに南部に位置しています。 ３ページをお願いします。 気候につきましては、高温多湿の亜熱帯海洋性気候に属し、四季をとおして暖かい気温でございます。 ４ページには、宮古島市の市の木、市の花、市の花木について記載しております。 次のページは、宮古島市の市の鳥、市の魚、市の蝶、市の貝になります。 次の６ページをお願いします。 本市と「宮古島市との交流のあゆみ」をまとめております。 主なものを申しますと、平成２６年２月に、堀田教育長が宮古島市から招かれ、講演をされたのが交流の始まりと聞いております。 平成２９年８月に宮古島市の市長と教育長が本市に表敬訪問されております。 その後、山鹿市議団や副市長が、宮古島市を表敬訪問し、また、宮古の産業まつりに山鹿市の担当課がブースの出展をしております。 令和２年２月に鹿北中学校の１年生１５名と、当時の栗川教育委員の他、引率の先生方合わせて２１名が宮古島市を訪問しております。記載は修学旅行となっておりますが、実際は訪問でございます。訂正していただきたいと思っております。 その後につきましては、８ページまでに記載のとおりで、昨年の７月には山鹿市と宮古島市で友好都市を締結しております。その宮古島市との友好都市提携式につきまして、９ページから１１ページにかけて写真や新聞記事を掲載しています。 次の１２ページから１６ページにかけては、「宮古島市との交流事業」につきまして、各種交流の写真をしています。１３ページ、１４ページは「修学旅行による教育交流」ということで、本年６月に宮古島市の中学３年生が、３泊４日の日程で、鹿北中学校との交流を行っております。対面式、交流会、フリータイム、プレゼント交換等を行い、親睦を深めております。子どもたちにとって、風土や文化が違う地域の子もたちと交流することは、大変貴重な経験となりました。 次に１５ページ、１６ページの方が「バスケットボールによる教育交流」ということで、本年９月に、３泊４日の日程で宮古島市の中学２年生２２名が本市のバスケットボール大会に参加いただいております。試合後は八千代座見学やバーベキューによる交流を行っております。

	次に 17 ページが「宮古島市と山鹿市の職員間交流」の様子を掲載しております。 昨年 11 月に立山教育委員にもご同席いただいて、本市の教育部職員 3 名が「宮古島市役所」や「結の橋学園」を訪問し、意見交換や情報収集等を行っております。 今後の教育交流の進め方等についての話し合いをして、有意義な視察となっております。 現在も継続して情報交換等を行っております。 次のページをご覧ください。 18 ページから 22 ページにかけて、「宮古島市の教育交流の状況と今後の展開（案）」についてを記載しております。 まず、現在実施している事業が 18 ページの「 修学旅行による交流」、それから 20 ページの「 学校間オンライン交流」までとなります。 先ほど説明しましたとおり、鹿北中学校と結の橋学園が毎年、修学旅行を行っております。本年 6 月に宮古島市から修学旅行で来られましたので、来年 1 月には鹿北中学校の 2 年生が宮古島市に修学旅行を予定しております。今後の展開としましては、引き続き事業継続の予定ございます。 次は「 バスケットボールによるスポーツ交流」です。 昨年から始めて今年で 2 回目になります。バスケットボール大会による交流はもとより、市内見学や食事による交流会を含め、大変有意義な交流となっておりますので、次年度以降も継続してまいりたいと考えております。 次に「 学校給食交流」です。 宮古島市の特産品である「マグロフライ」と山鹿市の「米」をそれぞれの小・中学校の学校給食で提供することとしており、本年 11 月頃に予定しています。今後は事業を継続するとともに宮古島市の「もずく」や「アオサ」、本市の「たけのこ」や「しいたけ」などの品目を検討して参りたいと思います。 次に「 こども芸術作品の相互交流」です。 子どもたちが作成する芸術作品（絵・写真）がありますが、それぞれの学校で展示することを予定しております。時期につきましては、宮古島市教育委員会と調整中でございます。今後は事業を継続するとともに規模を拡大していきたいと考えております。 次に「 学校間オンライン交流」です。 菊鹿中学校と宮古島市の上野中学校の生徒会がリモート交流を実施するもので、今年度の交流については現在調整中であります。こちらも事業を継続するとともに、定期的な交流や交流対象の生徒・学校を拡大していければと考えております。 次からが来年度からの新規事業になります。 まず「 スイジガイを象った円形銅器の鑄造体験」です。 方保田東原遺跡でスイジガイをモチーフとした銅器が出土しております。 スイジガイは宮古島市の市の貝であり、ふるさと納税の返礼品にもなっております。両市を結びつける象徴として、スイジガイに関連する体験イベントを実施したいというふうに考えております。具体的には、本市が持っています鑄造製作キットを宮古島市に貸与し、体験教室を実施してもらい、宮古島市からはスイジガイの実物を本市に貸与してもらい、博物館等に展示したいと考えております。 次に、「 生涯学習講座・生涯大学での学び交流」です。
--	--

	お互いの地域に精通した人物を講師として派遣し、講演を行うもので、相互の地域について理解を深めることを目的としております。 次に、「図書館での掲示」です。それぞれの図書館に、両市の歴史や文化、郷土の人物に関する図書を展示することとしています。年間 30 冊程度を想定しています。 最後に、「宮古島トライアスロン大会出場助成」です。 毎年、宮古島市で全日本トライアスロン宮古島大会が開催されております。本市では開催されていないトライアスロン大会へ山鹿市民が参加される際に、参加費の半額を助成するものになります。 なお、来年度事業につきましては、宮古島市の教育委員会関係部署と、現在、内容を協議しているところです。 長くなりましたが、説明は以上でございます。
早田市長	ただいま、「宮古島市との交流について」事務局から説明がありました。私も最初の頃から少し関わらせていただいておりますけども、特に教育の中でも、子どもたちの交流が活発でございます。 それから、物産品を通じての相互交流です。商工会議所、それから商工会の山鹿市のトップの方々と宮古島市に一緒に行って、宮古島市の代表の方とお会いして交流を深めさせていただきまして、どんどん宮古島市の人との交流が、さらに広がっているような印象を受けているところでございます。 それでは、ただいまの説明について、委員さんの方から何かご意見等ございませんでしょうか。
立山委員	バスケット交流についてです。 バスケット交流に来年度の予算は付かない感じですか。ボランティアや実費でしていますが、宮古島協議会からお金が出ていますが、少し予算が無いとうまくいかないかなと思います。毎年、宮古島市からは来てもらっていますが、山鹿市から行くことが全く無いです。 宮古島は結構手厚い補助があり、旅費の半額補助などで、実際は 3 分の 1 ほどしか払っていないと思うんですよ。 交流は始まっていますが、山鹿市からは行っていないので、子どもたちも行きたいなぁ、親も連れて行ってあげたいなぁという思いはあります。山鹿市の補助金が 30 万円はありますが、全員で 20 名ほどいるので、結構な金額になります。少しでもいいので、予算を組んでいただけないかなと思います。
早田市長	今の件に関して、事務局説明をお願いします。
西島教育総務課長	バスケットボール交流につきましては、昨年から実施ということで、教育総務課の井上係長が引き続き対応しているところでございます。予算の事は少し聞いているところでございます。山鹿市としての対応については、市のスポーツ協会で、バスケットボール協会も関わっているとも聞いておりますので、来年度実施にあたっては必要な予算あたりに関しては、市のスポーツ協会の所管である生涯学習・スポーツ課とも検討していきたいと思います。
早田市長	今後さらに交流が深まるとバスケットボールだけでなく、いろんなスポーツの交流が生まれてくると思うんですよ。多くなると、予算も限られていますので、

	その辺はしっかりと検討していただき、少しでも行く人のためになればと思います。
立山委員	山鹿市から行く人を増やしたいですね。宮古島市から来る人は増えていますが、山鹿市から行く人が少ないです。
早田市長	検討をお願いします。他にございませんか。
野中委員	宮古島市の中学校と小学校の数を教えてください。
井上教育総務課総務企画係長	中学校が10校、小学校が15校、小中一貫校が1校あります。
野中委員	バスケットボール交流とかがあっているのは、資料を見たときに、とてもいいなと思いました。 なぜかという、取っ掛かりは教育長が非常にご尽力いただいて、修学旅行の形をとりましたよね。実は修学旅行は、修学旅行の教育上の目的・目標があります。それが果たして同じように満足できるものであるかになります。 宮古島市には、いいものがたくさんあります。 長く山鹿市の子どもたちが平和教育として沖縄を訪れて、じっくり深めていた部分がありましたけれども、そういった失うものをどこでカバーするのか。いいものに変えようとしたときに、必ず今まであったものの中で失われていくものがあるんですね。それをどうカバーしていくのかっていうことを押さえていないといけなことを強く感じています。 世の中の問題の中に、例えば、熊本県は「水俣病」と「ハンセン病」は基本で外せません。 沖縄の修学旅行というの、平和教育も基礎・基本だと思いますけれども、その部分が薄くなるのを非常に危惧しておりました。 将来的にどういうふうに進めていくのかと思ったときに、もちろん宮古島市側の修学旅行生を受け入れるという目的があります。 修学旅行というのは教育の特別活動の行事としても、教育課程の中で、特別な目標・目的を持って組み立てられます。だから、いずれは修学旅行をしているから交流していますという事ではなくて、代表者を派遣するとか考えていった方がいいと感じています。 修学旅行は修学旅行として考えて、バスケットボールによるスポーツ交流であったり、芸術作品の交流もあるようだけれども、方向的を何か広く考えていった方がいいのではないかなと感じています。 鹿北の住民で鹿北に住んでいると、いろんな話は聞いていますし、いい話もたくさんあります。山鹿市の中学校全部が行っているわけではないので、そのあたりがちょっと気になります。 だから、修学旅行としてするのか、交流活動としてするのか、今後、考えた方がいいと思います。できれば、スポーツ交流や食材での交流もありますが、募集をしていくような形にできればと思います。学校は学校で、自分の学校の教育活動の目標をもって、修学旅行を行うことがいいと思います。

	以上です。
堀田教育長	今の件ですが、令和5年1月に全部の学校を連れていきました。その時に、宮古島の文化課の専門員に案内をしてもらいました。修学旅行の大きな目的として繋げたいことを聞きました。沖縄に行くときは、平和学習という大きな目標がありますから、宮古島市ではそれはできないのですかと尋ねましたら、できますという話をされました。私たちが知らない宮古島の平和学習や自衛隊、ハンセン病もあるとのことでした。 ネックは旅費が高いということになります。こないだ、鹿北中学校の子どもたちの意見で、宮古島市に行きたいという希望があったと校長から聞きました。ただ、それには保護者の了解もいるし、保護者が修学旅行の費用を出しますから、今年は詰めていかなければいけないとなりました。修学旅行として行くなれば、目標・目的がいります。野中委員が言われましたスポーツ交流といった交流で繋いでいくなど色んなやり方があります。
野中委員	始まってから、ある程度形になったので、将来的にどういう方向を目指していくかを、行き当たりばったりでなくて、決めるといいと思います。
堀田教育長	宮古島市とは財政が違います。宮古島市からの修学旅行は3泊4日の日程で来られましたが、1人あたり6万円くらいの補助が出ています。宮古島市は何か特別な補助が出ています。 山鹿市が鹿北中学校に補助していますが、3年間になります。今年も、これだけは予算を切ることがないように予算要求をしています。 教育交流として、鹿北中学校の修学旅行は繋いでおこうと思います。鹿北中学校以外が修学旅行に行きたいと言ったときに、片方はやって、片方はやらないことは出来ません。莫大な費用がかかりますので、山鹿市の財政が持たないという心配をしています。鹿北中学校だけは継続したいという思いを持っています。他については、どういう形で繋がってもいいと思います。
野中委員	私たちは資料をもらって、説明を聞いたのは初めてになります。なぜ、鹿北中学校だったのかも知らなかったんですよ。
野口委員	交流はいいんです。1番気になるのは、修学旅行です。最初から引っかかっています。修学旅行は教育的なこともありますし、保護者が費用を出さないといけないですし、宮古島市は沖縄のもっと先になります。当然、旅費もかかります。それにかかる分を補助が出せるかといっても、山鹿市の財政力は厳しいと思います。わざわざ行くのですから、そこでしか味わえないことや体験できないこと、体感できないこと、こういうことがあるから保護者の協力を得ることが出来ると思います。 だから、沖縄だったり、広島だったり、京都だつたりに行くというのは、そういう意味合いで修学旅行を行ってきたと思います。それを今は鹿北中学校でやっていますが、他の中学校が行きたいと言ったら、それに対応できるような予算は難しいと思います。修学旅行では、やっぱり違うと思います。 修学旅行は、本来の教育の目的がありますので、教育交流の方がすんなり行くと思います。他の全然育った環境の違う人たちと交流をすることや学校同士の交流をすることは、大事なことだと思います。 私は、切り離して考えた方がいいと思います。どうしても修学旅行は最初から気

	になっています。
堀田教育長	最初は、修学旅行ではありませんでした。途中から修学旅行になった理由はどうしてですか。
佐藤教育部 首席審議員	最初は、規模的なものもありまして、鹿北中学校の少人数ということで交流団として派遣され、その中で先ほどからありましたように、風土・文化の違いを感じ取って、学びの場として体験していただいたということです。 その翌年から鹿北中学校が修学旅行として計画されましたけれども、コロナの影響で、2年間は中止となりました。 その後は、他の中学校の代表者による交流として、交流団を派遣し、体験してもらい、持ち帰っての検討をお願いしたところでした。 菊鹿中学校では、現在、リモート交流を進めているということでもあります。 先ほどからありますように修学旅行のみならず、公募により、その中で人材育成も含めて、例えば何人か集めての交流を行い、そこで経験を積んでもらうとか、あるいは小・中学生に限らず、一般の方の文化やスポーツの交流としての検討もしていますが、現在、教育部で協議した交流の内容としては、ここに示したとおりで、宮古島市に提案している状況でございます。
早田市長	修学旅行の負担はどのようになっていますか。
佐藤教育部 首席審議員	保護者の負担になります。これまでの修学旅行は、沖縄まで行かれていましたが、その先の宮古島市まで足を延ばしていただくということになるので、その分の費用を市の負担として、支援しているということになります。
早田市長	時期で安いとかは無いのですか。
立山委員	年中高いです。
早田市長	修学旅行は何泊しているのですか。
佐藤教育部 首席審議員	鹿北中学校は、2泊宿泊していて、1泊は民泊をしています。
早田市長	他に、何かございませんか。
野口委員	前の鹿央町のときに、スキー体験をしていました。スキー経験ができないという理由で、北海道に行かれていました。そのときは、全部、手上げ方式だったのですよね。希望ですね。少しの負担はもらいますが、希望する方を対象にしていました。 そういうやり方でないと出来ないのかなと思います。山鹿市の中学2年生全員が宮古島市に行くようになったら、教育予算はパンクするのではないのでしょうか。
堀田教育長	希望ということになると、クーマと交流をしています、市が1人20万円出しています。応募してくるのは、全員裕福な家庭ばかりになります。 ライオンズクラブがしていますが、学びたいけど学べない子どもがたくさんいます。なので、ライオンズクラブにそういった子どもを連れて行って欲しいとお願いしたこともあります。手上げ方式になったら、裕福な家庭しかいけない場合があります。 修学旅行は皆が行きます。保護者が3分の2は負担しないといけませんが、鹿北

	中学校だけはそういう思いがあります。小規模特認校にもしています。「誰 1 人取り残さない教育」という観点からも、修学旅行を続けさせたい私の思いであります。
早田市長	他に何かありませんか。
野口委員	給食は賛成です。
早田市長	最初は、マンゴーを食べさせたかったですが、費用が高かったです。マグロカツが進んでいます。米の件も進んでいますよね。
井上教育総務課総務企画係長	はい。
早田市長	これで議題についての意見交換を終わりたいと思います。 よろしいですか。
各委員	はい。
早田市長	次に、3 その他 に移ります。 事務局から何かございますか。
小林教育総務課長補佐	ありません。
早田市長	それでは、本日は大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。 以上で議事を終わります。 ありがとうございました。
小林教育総務課長補佐	本日の会議の全日程は終了いたしました。早田市長、教育委員の皆様、どうもありがとうございました。 それでは、これもちまして、令和 6 年度第 1 回山鹿市総合教育会議を終了いたします。 皆様、ご起立ください。礼。 皆様お疲れ様でした。